佐伯警察署協議会

第１回会議の開催状況

第１　開催月日

令和６年６月１０日（月）

第２　出席者

協議会　委員　　８名
警察署　署長、副署長、総務課長、会計課長、地域課長、交通課長、警備係長
７名

第３　議事の概要

１　業務説明等
警察署から
・管内治安概況
について説明がなされた。

２　諮問事項の説明
警察署から
・諮問事項「若手職員の育成」と「人材確保方策」
について説明がなされた。

３　諮問事項に関する意見等
(1)　委員から「警察官に採用された者はどの程度の人数が離職するのか。また、他業種から警察官に転職する者はどれくらいいるか」旨の質問がなされ、警察署から「確認の上、回答する」旨の説明がなされた。
(2)　委員から「採用１０年未満の職員を若手と言うのか。それとも年齢で若手と呼んでいるのか。また、採用試験の競争倍率が低くなっていると言うが、現状の数値が高いのか低いのか分からない。目標はあるのか」旨の質問がなされ、警察署から「当署としては、採用１０年未満の職員を育成対象ととらえている。競争倍率が下がっているのは事実で、以前と現在とを単純に比較できないが、目標については組織的な部分もあるが、今後の検討課題としたい」旨の説明がなされた。
(3)　委員から「警察官は『体育会系』『志が高い』というイメージが強く、一般的な大学生が就職活動を行う上で、選択肢に入ってこないのではないか。例えば、工学系の学生は「サイバー対策」に関心を持ち志望するかもしれないので、学生に応じた採用活動が効果的なのではないか。警察官Ｂの採用については、現在行っている採用活動が活きているように思うが、大学生には、また別の方策を講じる必要があるのではないか」旨の意見がなされた。
(4)　委員から「警察は公務員であるが、一般的な公務員との違いを感じる。『給料』や『待遇』という面ではなく、『イメージ』や『夢』、『皆さんの安全のため』といった目的が若手の心に明確になっていくと、離職は減るのではないかと思う」旨の意見がなされた。
(5)　委員から「警察は大変な仕事というイメージが強く、採用試験に合格するだけでは続けていくのは難しいのではないかと思う。『みんなに頼りにされる』『社会貢献できる』仕事という点をアピールして受験者を集める必要があると考える。学校に訪問し、個別に説明会に開き、年齢の近い警察官が話をするという点は効果的と思う」旨の意見がなされた。
(6)　委員から「現代の若者に対しては、それぞれの個性に向き合い、指導内容を微調整しながら対応していくことが必要だと思う。採用募集活動について、若い警察官が『警察官になった理由』や『やりがい』などの思いを発信していけば、中高生にもっと伝わると思う」旨の意見がなされた。
(7)　委員から「採用された後の教育の状況を伺ったが、これだけの教養や研修が必要ということは、やはり特殊な業務だという印象を受けた」旨の意見がなされた。
(8)　委員から「採用試験の競争倍率が低くなっていると言うが、働く人間が減っているので、倍率の減少は仕方のない部分があると思う。また、研修期間が長い印象を受けるが、警察も教育の内容を、時代と共に変えて行かなくてはならないのではないかと考える」旨の意見がなされた。